

第廿五回文科學術談話會

記事

大正二年二月一日午後一時より講堂に於て例會を開く。

講演順序

一、各國殖民地視察談 文學博士 幣原 坦
幣原先生は嘗て當校の教官にましませし由校長中川先生よりの御紹介あり。
前記の演題による御講話約二時間に亘りて面白く拜聴す。御講話の内容は次號の會誌に掲載の筈。

二、朝鮮の話

文一ノ二 安永 みち
朝鮮風俗に關する標本類(櫻蔭會より本校に寄贈せられしもの)を陳列して參考に供す
なほ當日の豫定として、文科三年本田よる氏

の容儀服裝の變遷に關する説話ある筈なりしも時間の都合により次回に繰り延ばす事とせり。

會員移動

一、澤ため子氏
熊本縣限府町高ノ瀬佐藤方に轉居せらる
一、高橋まり子氏(舊姓白川)
退會せらる

第四回會計報告

收入 金七拾參圓貳拾參錢

内譯

四拾壹圓四拾壹錢五厘 前回よりの繰越金
壹圓 客員よりの寄附金
九圓八拾錢 贊助員會費
貳拾壹圓四錢五厘 會員の會費

支出 金四拾九圓四拾錢

内譯

四拾參圓木拾五錢

壹圓五拾錢

四圓貳拾五錢

差引殘高金貳拾參圓八拾六錢

會費領收

四十五年度分

湯田 るい 林 玉子 林 文子

交詢

母校たより

○大正第一の新年は希望の光を包んで黙々の中に歩み來り候。諒闇中の悲しさは祝賀の式も御遠慮致し候事なれば一月八日午前八時を以て新しき世に入りたる職員生徒は始めて一堂に會し校長より大正人としての覺悟につき切實なる御訓話を承り申候。あゝ吾人は奮闘努力大正の世

今泉 うた 大平ふじへ 丸山 モト
高橋 まり 澤 ため 橋本きをじゆ
寺山 まつ 折笠 らい
大正二年度分
林 玉子 林 文子 大平ふじへ
丸山 モト 河崎 なつ 折笠 らい
竹田 倭子 小林きしの 竹尾 恵子
千葉 安良 目良 かね

をして充實せるものたらしむべき大責任を有し居るにて候。

○二月一日講堂に於て文科學術講話會開催幣原博士を聘して氏の親しく視察し給ひし世界各地の女子の風俗教育等につき講演を承り申候。聴衆堂に溢れし盛況は以てその内容を察し給ふに難からずと存せられ候。